

The Reminiscence of Exellia NG+1

クロニクルクエスト「Rekindled Embers」 Vol.3「Finale」

作成レギュレーション

基本概要

- ・ 経験点：148000 点
- ・ 資金：282000G
- ・ 名誉点：1820 点
- ・ 成長回数：282 回
- ・ レベル制限：13
- ・ アイテムレベル制限：武器ランク S 以上／防具ランク S 以上
- ・ ステータスリミット：各項目ボーナス 15（+増強増分 2）まで

制限事項

- ・ 放浪者／蛮族 PC 禁止
- ・ バニラ標準流派入門・使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限
- ・ シナリオ報酬の成長回数が 10 以上の時、その 6 割の偏重割り振りの禁止
- ・ 戦利品判定は振ってくれ。

その他注意事項

- ・ レベル制限逸脱 PC のレベルシンク
- ・ ステータスリミット逸脱 PC のステータス振り直し
- ・ 成長回数制約逸脱時の強制デッドエンド

導入

この世界にはカルディアのマナはなく、その代わりに集中力（FP）で魔法を構成します。

その性質上、この世界では普段と同じ方法で通常の魔法を使用できず、練技なども使用できません。

ただし、魔法については、指定された消費 MP の 3 倍と同じ FP を消費することで、魔法を行使することができます。

例外として、特殊神聖魔法は一切使用できません。

FPはMPと同値のリソースですが、MPを自動回復する効果や、《ルーシッドドリーム》などの回復手段で回復することはできません。その代わり、ラウンドの終了時に最大FPの5%ぶんだけ回復します。

輪の都限定要素はありません。

(注釈ここまで)

酔いが醒めると、君達は美しい街並みが特徴的な都の入口に立っていた。

エクセリア

「無事か？」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアも、同様に飛ばされてきたようだ。

その虚空に、飛ばした元凶が顕れる。

ホクトクラフト

「いよいよ、お前達はここを攻略するのか。まあいい、おかげでお前達を破滅させるに足る存在を喚ぶ準備が整った。…フィリアノール教会を目指せ。俺から話せることはそれだけだ」

そう言って、君達を挑発する。

(※GMメモ：RP待機)

ホクトクラフト

「敢えて言わせてもらうが、お前達をここに召喚したのは俺じゃねえぞ。世界の強制力と言うべきものが、お前達をここに手繰り寄せた。ただそれだけだ」

PC への選択肢

- ・ お前はまだ、世界の終末をあきらめていないのか
- ・ いい加減お前にはうんざりだ、消えてくれ

ホクトクラフト

「問答無用。実力を示してみせろ」

そう言って、ホクトクラフトは消失する。

…ひとつ、旅路が終わろうとしていた。

輪の都

王廟の見張り

君達は今、「王廟の見張り」にいる。

そこから降りていくと、遠くに佇む巨人が、咆哮を始めるだろう。

その呼び声に応じて、幻体が大量に召喚される。

(※GMメモ：RP待機)

回避力判定 目標値：26

失敗時、2d+120 点の物理ダメージ。このダメージ効果によって HP が 0 以下になったキャラクターが存在する場合、HP を戻した上で全員判定をやり直す。

なんとか回避しながら巨人の足元まで至れたなら、漸くマトモに戦えるようになる。

敵：巨人法官

君達は巨人法官を討ち倒した。見ると、そこそこ興味をそそられるような場所になっている。見定めてもいいかもしれない。

探索（スカウト観察）判定 目標値：25

文明鑑定（セージ知識）判定 目標値：21

探索判定成功時、墓石の裏に〈エクセルシオール・スノーホワイト・プレリュード〉のような残骸が転がっていることに気付く。続けて目標値 31 の宝物鑑定（セージ知識）判定を振って、正体を見定めてもよい。

文明鑑定判定成功時、凡そラクシアの技術力では再現不可能な建築様式であることが分かる。

探索判定後の宝物鑑定判定成功時、恐らくこれが、この時代の〈エクセルシオール・スノーホワイト・プレリユード〉であると分かる。現代のそれとは、形状や機能が大幅に異なるが、その理由は定かではない。

君達は、探索の途中で、先ほどの巨人の背中側に階段があることに気付く。
階段を降り、やけにくぼんだ場所に、それはいた。

バッタ脚の亡者

「火に望まれぬ者がいる。君達のこと、そして私達のことだ。この街を見よ！我らは同朋、瞳を覗くように明らかに。だから君、闇を恐れるなかれ。我ら食餌の時だ」

(※GMメモ：RP待機。その後、続けてバッタ脚の亡者の語りを入れる)

バッタ脚の亡者

「放浪の騎士、終わりなき忌み探しの旅。その終わりは深淵にのみあった。たとえ彼女が訪れぬとも。だから君、闇を恐れるなかれ。我ら食餌の時だ」

何を話しても、似たようなことしか言わない。
この亡者との会話は無駄なようだ…。

先に進むと、縮こまった亡者たちに襲われる。

敵：輪の都の亡者

君達がそれをいなして先へ進むと、篝火があった。

輪の内壁

君達は、篝火で休むことができる。

(※GMメモ：RP待機)

しかしなぜだろう、エクセリアがいない。

探索（スカウト観察）判定 目標値：25

聞き耳（スカウト観察）判定 目標値：21

探索判定成功時、人の気配を入れて右側のテラスから感じる。

聞き耳判定成功時、入って右側のテラスで喋っている男女の声を聞き取る。

君達は、休憩をやめ、右側のテラスへ行った。

そこでは、金属鎧の男とエクセリアが話をしていた。

金属鎧の男

「おう、あんた、まさかここで会うとはな。だが、同じ場所を目指し、共に無事に辿り着くとは、嬉しいことだ。最後の酒がある。これで祝杯を上げようじゃないか」

エクセリアは、彼から渋々酒を受け取る。

金属鎧の男

「俺の目的と、あんたの使命に。それが目の前にある幸運に。

…さあ、乾杯だ。フヒヒヒヒ…。

さて、俺は解呪の碑を探すとするよ。それを見つければ、きっと思い出せるだろう。

俺が何者だったのか、何のために生きたのか、本当の名前も。そして、ずっと何を憎んでいたのかも。…何となくは分かるものさ。きっと俺は、そういう男だったのだろう。

あんた、それでも嫌いにはならないでおくれよ。フフツ」

エクセリアが君達に気付き、ばつが悪そうに君達のもとへ行く。

エクセリア

「…いつからいた？」

（※GMメモ：RP待機）

エクセリア

「彼のことが気になるのか？彼はラップというらしい。…推定だが、あの声は…」

あいつだろう、と言う前に、その正体に辿り着くことを本能が拒絶した。

エクセリア

「…いや、敢えて言うのはよそう。そのほうがいいと、私の中の虚無が告げている。
さて、フィリアノール教会を目指すぞ。ついでに、解呪の碑も探す」

階段を降り、ホール状の建物に辿り着く。

エクセリアが的確に、敵を退けていく。大きな階段の通廊に到達し、そこで君達の前に
頭が闇となった巨体の亡者が現れる。その亡者は君達を捉え、襲いかかってきた。

敵：ハーラルドの戦士×8

君達は、巨体の亡者たちを退けた。

(※GMメモ：RP待機)

階段の先、黒い沼地の領域には、不自然に敵がいない。

(※GMメモ：RP待機)

しかしなぜだろう、本来そこにいるはずのない存在が、そこにいた。
雷を纏った、竜狩りの騎士の姿だ。

(※GMメモ：RP待機)

それは狩りの衝動に駆られるがままに、君達に襲いかかってきた。

敵：竜狩りの鎧

君達は、それを撃破した。

(※GMメモ：RP待機)

君達は篝火で休むことができる。その間に、エクセリアは解呪の碑の場所を特定し、金
属鎧の男にその場所を教えるだろう。

休みますか？

(※GMメモ：RP待機)

輪の市街、地下墓地

君達が休んでいると、エクセリアが戻ってくる。

エクセリア

「そろそろ出るぞ。…解呪の碑は見つけた」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、エクセリアに先導されるまま、君達は地下墓地まで辿り着くだろう。

そこで、かがんだ金属鎧の男と再会する。

ラップ

「…ああ、あんた、待っていたぜ。あんたのおかげで、俺は俺を思い出した。その礼を、しなければと思ってね。…この先で、壊れた階段の先を覗いてみな。凄いお宝が転がってるぜ。きっとあんたの役に立つ…」

その言葉を聞いて、エクセリアは階段下を覗く。

(※GMメモ：RP待機)

当然、蹴り落とされる。

????

「いつの時代も、人の欲とは変わらぬものだな。無欲の俺には、とんと分からない話だが…」

そのはげ頭の男は、エクセリアを見て笑う。

エクセリア

「パッチだったのか、お前…」

パッチ

「…だが、それでこそ人の道なのかもな。精々祈ってるぜ。あんたに暗黒の魂あれ」

そう言って、ラップもといパッチは立ち去るだろう。

どうやら、パッチがエクセリアを蹴落とした場所が、正規の道らしい。

そのまま道なりに進み、ようやく最初の目的地に到達する。

そこで、斧槍を持ったパッチと再会する。

パッチ

「また会ったな、冒険者。ああ、当然お前達には気付いてたぜ。薄っぺらい魂だな、そんじょそこの亡者のほうが持ってるくらいだ。

まあいい、俺はこいつに協力するだけだ」

次の戦闘では、NPC として「不屈のパッチ」が参加します。

教会の槍と、秘された王女

霧の壁をくぐると、巨人法官が待機していた。

法官アルゴー

「愚かなことだ。王の法を軽んじるとは。法官アルゴーが、その業に報いを与えよう。教会の槍よ、来たれ…」

敵：教会守り×2

君達が教会守りを破ると、すぐに教会の槍が喚ばれる。

パッチ

「気をつけな！そいつはただもんじゃねえぞ！」

敵：教会の槍、ハーフライト

君達は教会の槍を撃破した。

パッチ

「終わったな。未来の英雄さんよ、よく頑張ったな」

(※GMメモ：RP待機)

パッチ

「…で、エクセリア。お前、隠し事でもしてるんだろ？なぜ、教会の槍を仕留めた後に、俺が消えない？」

黙り込むエクセリア。しかしその左手には、あるものが握られていた。

(※GMメモ：BGM「Shadowbringers」)

エクセリア

「…当然だ、お前は…お前は火の時代の最後を生き延びた、私以外で唯一の戦士だから」

(※GMメモ：RP待機)

最後の薪の王以外に、火の時代を生き延びた存在がいたという事実には、君達は多かれ少なかれ驚きを持つだろう。

パッチ

「おいおい、俺以外にもいただろうが、火の時代の最後を生き延びた存在で言えば」

エクセリア

「確かに、アンドレイなんかも生き延びている。でも…『最後の薪の王』は、そのいずれにも『同胞』を見出すことができなかった。パッチ…君が生きていたから」

(※GMメモ：RP待機)

パッチ

「今は、違うだろ？」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、パッチは己に仕組まれた絡繰りを解く。

霧散を開始するパッチの体。それを、君達は見ていることしかできない。

エクセリア

「パッチ…」

パッチ

「言っただろ？暗黒の魂あれ、ってな。今度こそあばよ、だ！」

そう言って、パッチは消え去った。

(※GMメモ：RP待機)

その後、エクセリアは教会の奥へと進む。

君達も追いかけてよう。

(※GMメモ：RP待機)

君達は教会の最奥に辿り着いた。

エクセリアが、重い扉を押し開ける。

エクセリア

「毎度思うが…やはりというか、重いな…！」

扉の先には、眠る巨大な女性がいた。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「この泡沫も、これで最後だ。フィリアノール王女…目覚めのときだ。その眠りの牢から解き放たれなさい」

そう言って、エクセリアはフィリアノールが抱える殻に魔力を流し込む。

殻は割れ、フィリアノールが眠りから解き放たれる。目覚めたフィリアノールが、君達を見る。

その直後、光が溢れ——朽ちた塔と、ミイラ化したフィリアノール…。

そして、灰ばかりの砂原がそこにあった。

(※GMメモ：RP待機)

朽ちた都

その都で、君達はエクセリアを探す。

しかし、エクセリアはどこにもいない。

彼女も、消えてしまったのだろうか？

(※GMメモ：RP待機)

君達が砂原へ出て暫くすると、女の悲鳴が聞こえる。

女

「…私は、お前達を決して許さない…」

そこに、いつもの装いだ、どこか若いエクセリアがいた。

輪の都のエクセリア

「……………」

彼女は君達に気付くことなく、どこかへと去って行った。

彼女が去ったことで、いつものエクセリアが姿を現す。

見ると、這いずっている亡者のそばにいた。

小人の王

「…ああ、フィリアノール、助けてくれ…。

赤頭巾が、我らを喰らう…。我らの暗い魂を…」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…こいつは癒しても意味がない…。最後の戦いだ、腹をくくれ」

そう言って、エクセリアは残骸を目印に前へ進む。

赤頭巾

そこは、暗い魂を持つ小人の王たちが集う場所だったのだろうか。

見るも無惨に破壊され、死骸さえも転がっている。

その奥で。

小人の王を喰らう、赤頭巾の姿があった。

(※GMメモ：RP待機)

赤頭巾が、君達を見る。

奴隷騎士ゲール

「まだ、いたのか。さあ、儂によこせ。お前の、暗い魂を。お嬢様の画のために」

折れた剣に突き刺した死骸を投げ飛ばし、奴隷騎士ゲールが君達を喰らわんと襲いかかってきた！

敵：奴隷騎士ゲール

第2形態遷移（HP70%以下）

奴隷騎士ゲールが膝をつく。

目元から、黒い涙を流す。

奴隷騎士ゲール

「ああ、これが血か」

——The Blood of the DARK SOULS?

漆黒に染まった大剣を握りしめて立ち上がり、怨念を纏う。

第3形態遷移（HP30%以下）

奴隷騎士ゲールが涙を更に流す。

地面より、数多の怨念が吹き出した！

〔バフ付与〕奴隷騎士ゲール：デュナミスの灯火
デュナミスの灯火は、あらゆるダメージを半減させる。

討伐後

君達は、ゲールを討滅した。
彼の者が流した涙——暗い魂の血を、エクセリアが受け取る。

景色が変遷し、アリアンデル絵画世界の礼拝堂、その2階。
そこで、絵描きの少女が画を描いていた。

絵描きの少女

「…火を知らぬ者に、世界は描けず…火に惹かれる者に、世界を描く資格はない…。
大丈夫、忘れてないよ、お母さん…」

(※GMメモ：RP待機)

絵描きの少女

「…エクセリア。あなたのくれた火が、燃えています。そしてもうすぐ、ゲール爺が、顔料を持ってきてくれます。人の暗い魂、その色をした顔料を。
…お爺ちゃんはまだ、見つけたかしら？」

後ろめたそうに、エクセリアが君達を見る。
…渡すべきか、悩んでいるようだ。

「暗い魂の血」を渡しますか？

「暗い魂の血」を渡す (Optional)

エクセリア

「…お嬢。これを」

そう言って、エクセリアは〈暗い魂の血〉を絵描きの少女に渡す。

絵描きの少女

「ありがとう、エクセリア。

これで私は、世界を…いや、今はもう、必要ないんですね」

(※GMメモ：RP待機)

絵描きの少女

「分かっていますよ。これが、ゲール爺から取れたものだと。

これをどうするにせよ、いつか世界が壊れるときに使いましょう。

…エクセリア。あなたは決して、ひとりじゃない」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、絵描きの少女は境界を越える。

その瞬間、泡沫世界が色褪せていく。白も黒もない、何の色も描かれていない世界へと崩壊していく。

エクセリアは、君達を伴って脱出した。

報酬

経験点

・基本：2000 点

資金

このシナリオに資金報酬はありません。

名誉点

・基本：30 点

成長回数

このシナリオに成長回数報酬はありません。

その他報酬

・称号：暗い魂の探索紀行（The Soulsborne Traveller）